

2020年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和2年3月2日

三島市長 豊岡 武士

※ 氏名の記載を自著で行う場合には押印省略可

提案全体のタイトル	官民連携で進める「ガーデンシティみしま」の取組 ～美しく品格のあるまちづくり～
提案者	静岡県三島市
担当者・連絡先	

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

・地理的条件

本市は静岡県東部の伊豆半島の玄関口に位置し、古くは東海道の宿場町、三嶋大社の門前町として栄えてきた。現在は、国道1号や東名・新東名高速道路に接続する東駿河湾環状道路が整備され、富士・箱根・伊豆の各方面に開かれた交通結節点として発展している。また、東海道新幹線三島駅を有し、東京から1時間の通勤・通学圏内として多くの市民が利用しており首都圏からの移住先としても選ばれている。

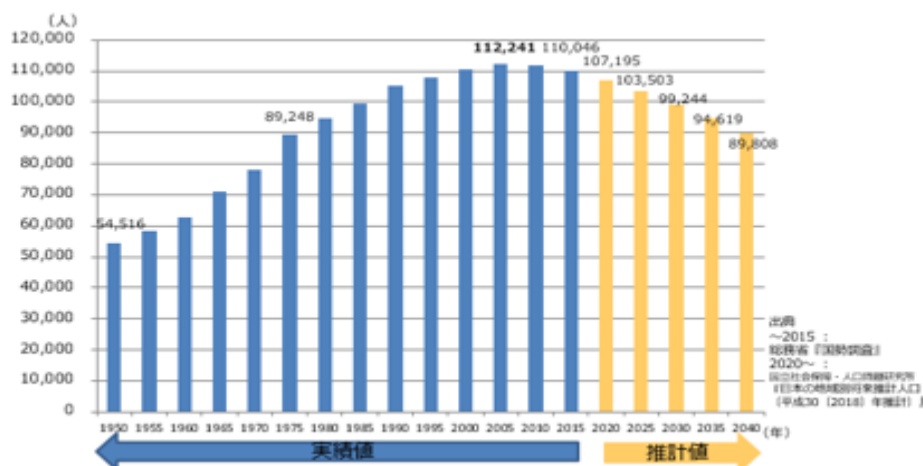
市域の3分の2は箱根西麓の農地や森林が占め、都市的土地利用が可能な土地が限られており、可住地1kmあたりの人口密度は2,887人(平成29年)と県下で一番の過密都市となっている。



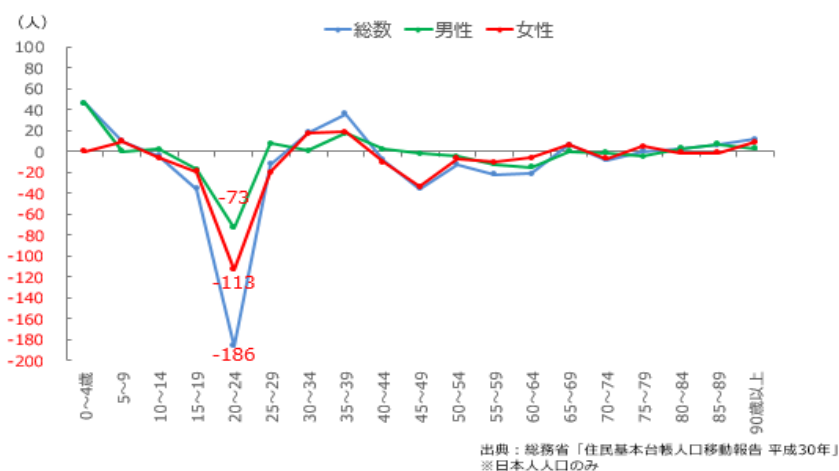
・人口動態

人口は約 11 万人(県内 23 市中 10 位)で、2005 年(H17)をピークに減少傾向が続いており、国立社会保障・人口問題研究所による人口予測では 2030 年には 10 万人を割り込み、2040 年には 1975 年程度の水準である 89,000 人に減少する。これに対し、本市の人口ビジョンでは 2035 年において 10 万人を確保することを目標としている。

また、若年層の人口流出が大きな課題となっており、特に進学や就職を契機とした若年女性の首都圏流出が顕著となっている。



【図 1-2】人口推移と将来予測



【図 1-3】人口転出入の状況(H30)

・産業構造

就労者割合では第 1 次産業 2.3%(県内 23 市中 20 位)、第 2 次産業 26.8%(17 位)、第 3 次産業 67.6%(6 位)となっており、第 3 次産業の比率が高い。

全体としてはバランスのとれた産業構造となっているが、製造事業所数が少なく(県内 15 位)、県東部近隣市町と比較すると大手製造業の進出が少ないこともあり、製造品出荷額では県内 17 位となっている。

・地域資源

(若者が集う文教都市)

市内には日本大学や順天堂大学、国立遺伝学研究所、大手通信教育出版社本社などがあり、三島駅周辺を中心に多くの若者が集う文教都市である。

(歴史や文化)

旧東海道が商店街を形成しながら街の中心部を横断し、県内最多の初詣客を誇る三嶋大社の夏祭り(三嶋大祭り)では伝統芸能の三島囃子(ばやし)や農兵節、山車が披露され3日間で市内外から約50万人の人出があり、市民の郷土愛を高めている。

(豊かな自然)

豊かな自然に恵まれ、富士山からの湧水が清流となって中心市街地を流れており、5月下旬からは街なかでも蛍をみることができる。また、箱根西麓地域では肥沃な土壌と日当たりの良い南斜面を利用してブランド野菜の栽培が行われている。

(地域の発展を支える民間投資)

JR三島駅前の再開発事業では、シティホテルや高層マンション、商業施設などの立地が進み、市の新たな顔づくりと賑わいの創出が進んでいる。また、箱根西麓地域では、日本一の人道大吊橋となる「三島スカイウォーク」や一年を通じてフルーツ狩りが楽しめる「伊豆フルーツパーク」など、地域資源を活用した新たな観光資源が創出されている。



新幹線の駅が立地



複数の大学が立地する文教都市



街なかを流れる清流と親水空間



豊かな歴史や文化に恵まれたまち



新たな観光資源
三島スカイウォーク



箱根西麓三島野菜

【図1-4】本市の地域特性

(今後取り組む課題)

○地域産業の振興と若い人の働く機会の創出

若者の働く場がないという問題に対処するため、工業団地の整備や企業誘致に加え、新たな産業振興やサテライトオフィスの整備など多様な職場の確保に取り組む。

○郷土愛やシビックプライドの醸成

高校生までに地元の魅力をよく学び、地域活動への参加等を通じて郷土愛を醸成することで、進学等で三島を離れてもいずれ三島へ帰りたい、三島を応援したいという関係人口の創出を図る。

○移住・定住施策の推進

首都圏まで約1時間の通勤・通学圏内である強味を生かし、子育て世代をターゲットに移住・定住施策を進める。

○子ども・子育て支援

保育園の待機児童の解消や地域で子育てを支援する体制づくりなど、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組を進める。

○女性の活躍推進

市民団体等で活躍する女性が増えており、女性達のネットワークの形成支援や、女性の視点を積極的に市政に反映する仕組みづくりを進める。

○地域コミュニティの強化

自治会や子ども会への加入率の低下や祭りなどの地域行事への参加者が減少しており、地域を支える人材の不足により、持続可能な地域コミュニティの運営体制の整備が求められている。

○循環型社会の形成と水辺環境の保全・活用

再生可能エネルギーの導入やごみの排出量削減など、循環型社会の形成に取り組むほか、水辺環境の保全と創出により豊かな自然環境を次世代へ継承する。

(課題に対して横断的に取り組む市の主要施策)

1 官民連携による「ガーデンシティみしま」の取組

地域資源である豊かな自然と歴史、文化に新たに「花」を活用し、美しく品格のあるまちをつくることで、交流人口を増やし、観光振興や産業振興に繋げていく。また、市民、企業との協働による市街地の環境美化や地域花壇の整備等を通じて、市民のシビックプライドを醸成するとともにまちの資産価値を高めていく。

2 健康で幸せを実感できるまち「スマートウエルネスみしま」の取組

生涯を通じて自立した生活ができる健康寿命の延伸に向けた取組のほか、あらゆる分野に健康の視点を取り込んで、人もまちも産業も健康で市民満足度、幸福度が高いまちづくりを進める。

3 地域のきずなづくりによる安全・安心な暮らしの実現

市民一人ひとりが心豊かに安心して暮らすことができるよう、人と人との心のきずなづくりの場の提供や市民が主体的に地域の課題を考え解決する組織づくり等、市民主体のまちづくりを支援し、ソーシャルキャピタルを高める取組を進める。

(2) 2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

2030年の将来都市像は令和2年度(2020)に定める第5次三島市総合計画(2021—2030)において掲げることとしており、現在はその移行期であるため、現行計画等を踏まえて、あるべき姿を構成する要素について記載する。

1 水と緑のまち

- ・駅前での喧噪を少し歩いて離れると、木々の緑に囲まれ、街なかのいたるところに清流が流れ、子どもたちが戯れている。電線類の地中化や歩道整備により近代化が進みながらも昭和の雰囲気が残る街なみがあふれる。



2 人が輝くまち

- ・性別役割分担意識の解消が進み、家事・育児における男性の参画はもちろん、地域で子どもを育てるという意識が浸透しあらゆる分野で女性が活躍している。
- ・若者の働く場所が増え、多くの若者が地元に戻り、多世帯同居、近居が増えている。高齢者も仕事や趣味をもち、生きいきと生涯現役を掲げている。



3 安全・安心な暮らし

- ・子どもの見守りや高齢者の一人暮らしを支えるコミュニティの結びつきが強化され、犯罪認知件数や幼児虐待、孤独死なども減少している。
- ・防災・減災に向けて行政の注意喚起や情報提供に加え、自助共助の意識による各家庭の備えや地域の防災体制が進んでいる。



4 交流と賑わいのあるまち

- ・三島駅南口の東西街区再開発事業が完了し、豊かな自然に囲まれた駅前広場とホテルや商業施設などの近代的な都市施設が伊豆の玄関口に相応しい街なみと賑わいを創出している。
- ・シビックプライドの高い市民がまちに花を飾り、ごみを拾い、来訪者をもてなし、美しく品格のあるまちを創り出すことで、観光客が増加し、商店街も活気づいている。





5 官民連携、市民協働、共創が支えるまちづくり

- ・小学校区など生活圏を共にする複数の自治会のまとまりを基本に、行政との協働、共創によりまちづくりに取り組む自治会運営の新しい仕組みが確立している。
- ・地方創生やCSRに取り組む企業が増え、地域との連携について行政が積極的に関わり、支援する。



(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット



(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8.9	指標: 観光交流客数(次期観光戦略プランを策定中)	
	現在(2018年): 7,748,456人	2030年: - (参考)2020年目標:8,000,000人
 11.3	指標: 三島駅南口東街区再開発事業	
	現在: -	2030年: 1件 権利変換計画の認可で70%の達成度とする

経済的側面では、増加している観光交流客数を地域経済の発展に結びつけていくことが課題である。伊豆や箱根、富士への広域交通結節点となっているが、宿泊施設や団体客の受け入れ可能な飲食店あるいは特徴的な土産物などが不足しており、今後は観光を中心とした産業振興が期待されている。隣接する箱根町などとの連携を進めているが、地場製品のブランド化とともに、観光客をまちの中心部まで誘導し、さらなる賑わいの創出と街なかの商店街振興にも繋げていく。

また、三島駅南口周辺では西街区に広域観光交流拠点として民間のホテル建設が進み、東街区でも民間組合施行による再開発事業の計画が進められている。本市の将来を左右する大型事業であり、これらの完成により都市機能の充実とイメージアップを図る。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11.3	指標: 人口増減	
	現在(2015年10月): 110,046人	2030年: (三島市人口ビジョン) 104,200人
	指標: 市内小学校の数	
	現在(2019年4月): 14校	2030年: 14校
 5.5, 5.c	指標: 女性活躍、男女共同参画の推進	
	現在: -	2030年: 三島市男女共同参画プランにおける成果指標の達成状況




人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の活力を維持し市民が安心して暮らせる持続可能な行政運営を実現できるよう、高齢者が暮らしやすい都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成を推進する。

また、2020年に成人式を迎えた若者が約1,000人であったのに対し、2019年の出生数は700人を割り込んでいる。子育てがしやすい環境整備とともに、企業誘致やサテライトオフィスの整備などにより若者の働く場所を増やしていくことで、2035年まで人口10万人を維持していく計画である。

老朽化する公共施設の維持管理については、ファシリティマネジメント計画に基づき、2040年までに約30%の公共施設を削減することとしているが、現時点では市内14小学校については、統廃合なく存続させていく計画となっている。

また本市では、男女共同参画を積極的に推進し、女性の登用率等では県内でも上位であるが、女性就業率が低く、住みよいまちの評価ランキング等において、全体の評価を下げる要因となっており、企業等との連携や協力のもと、女性の就労環境の改善を図る。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8.4  12.2	指標：一人一日当たりのごみ排出量	
	現在(2015年): 1,009g	2022年: 943g
 11.6	指標：清掃奉仕活動・環境講演会参加人数	
	現在(2015年): 1,267人	2022年: 1,300人





本市の豊かな自然環境と美しい水は市民が誇る宝であり、市民意識調査の結果においても、これらを保全し継承していくまちづくりが望まれている。

本市では、かつて住民運動により石油コンビナートの進出を阻止したり(1960年代)、どぶ川化した清流を再生するなど(1990年代)、郷土愛とともに環境美化、保全に対する市民意識が高く、市民ボランティアによる街なかの清掃や河川清掃、水源涵養事業などが継続的に行われており、今後も「三島の川をきれいにする奉仕活動」や「統一美化キャンペーン」など、市民協働の取組の拡大を図るとともに、再生可能エネルギーの普及促進やごみ排出量の削減等により循環型社会の実現を目指していく。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組

① ガーデンシティみしまの推進(花と緑のまちづくり)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 6, 6.6,6.b	指標: ガーデンシティの取組を行うボランティア団体数	
 13, 13.1	現在(2019年): 120 団体	2022年: 123 団体
 15, 15.1	(内訳) ・公共花壇(三島花の会)1 ・中心市街地(花サポーターみしま)1	
 17, 17.17	・地域花壇 99 ・企業花壇 19	

・みどりと花いっぱい運動推進事業

緑化イベントや講座の開催、地域花壇づくりの支援のため花苗の増産とともに公共施設や自治会への緑化木の配布などを行い、市内全体へのガーデンシティの普及推進と緑の保全を進める。

・ガーデンシティみしま花飾り事業

中心市街地に設置した立体花飾りの作製から維持管理までを市民ボランティアとの協働により行うとともに、さらに多くの市民や企業との協働を進めるため、有識者による市民向けの講習会を開催し、市民ボランティア活動の充実を図る。また、東京オリンピック・パラリンピック開催期間中は近隣の伊豆市が自転車競技の会場となることから、三島駅北口周辺にも立体花飾りを設置し、花と緑によるおもてなし空間を創出する。

・みしま花のまちフェア

市立公園楽寿園を中心に中心市街地を花で彩り、花に関するイベントを開催することで賑わいを生み出し、訪れた人に三島の魅力を広く情報発信する。



・水辺環境の整備と親水空間の創出

これまでに水辺空間を活用した公園等の整備を多数実施しており、これらを繋ぐ観光ルートを検討など、豊かで美しい水資源の恩恵を感じることができる環境を整備する。

また、三島商工会議所が行う放置竹林を活用した川床設置事業や市民ボランティアによるホタルを育成し、市内の河川での自生を進める事業などを支援していく。



上岩崎公園



菰池公園



白滝公園



源兵衛川



中郷温水池公園



水の苑緑地

・三島駅南口東街区再開発事業

三島市土地開発公社が先行取得した用地を活用し、三島駅南口周辺の再整備を行う事業。観光交流拠点整備事業として民間のホテル建設が進む三島駅南口西街区に続き、東街区についても「三島駅周辺グランドデザイン」に位置づけられた「広域健康医療拠点」の整備を進める。

本事業の実現は、長年の悲願であると同時に、活力と魅力に満ちた誇れる街を実現すべく今後の持続的発展に不可欠なものである。

(東街区)2020 年度：都市計画決定


(西街区)2020 年度：事業完了

2021 年度：組合設立認可

2025 年度：事業完了



② 女性の視点を活かしたまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 5.5, 5.c	指標：審議会等における女性の登用率	
	現在(2019 年 4 月)： 34.5%	2022 年： 37%
	指標：性的マイノリティに対する支援策(職員ガイドラインの策定)	
	現在(2019 年)： —	2022 年： 1 件



・男女共同参画の推進

本市では、女性の視点を活かしたまちづくりを進めるため、女性意見の広聴活動のほか、「女性まちづくり講座」などの人材育成事業にも力を入れており、市議会議員や女性消防団員も増えている。今後はあらゆる分野に女性の視点をもれなく反映するため、審議会等委員については、女性の登用比率を確実に高めていく。

・性的マイノリティに対する支援

性的マイノリティに対する支援では、令和 3 年(2021)年度から施行の第4次男女共同参画プランの策定に合わせ、市職員の対応ガイドラインの策定やパートナーシップ認定制度創設に向けた検討を進めており、ジェンダーの平等と多様な性のあり方に対する理解の促進を図る。

③ 地域の絆づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11.3, 17.17 	指標: 地域コミュニティの体制強化	
	現在(2019年): 地域コミュニティ連絡会 開催回数 12地区	2022年: 12地区(現状維持)
	指標: 地域協議会の設立	
	現在(2019年): 2地区	2022年: 4地区


・地域コミュニティ協議会の設置

小学校区を基本単位として、地域で活動する団体が各々抱える課題などを情報共有する「地域コミュニティ連絡会」を開催し、さらに地域の課題について地域で話し合う協議会を設置できるよう支援しているが、市民の主体的な活動を促しながら、行政との連携をさらに強化し、地域の絆づくりを進めていく。

・子どもは地域の宝事業

子どもの誕生を地域全体で歓迎し祝うと同時に、子育て世帯と自治会、子ども会との繋がりをもってもらうことを目的に、お祝いイベントなど自治会独自の子育て支援活動の普及を図る。

④ 安全・安心なまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 13.1	指標: 図上訓練・防災講演会参加者数	
	現在(2018年): 3,526人	2022年: 6,000人
	指標: 自主防災組織における防災訓練実施率	
	現在(2018年): 95.1%	2022年: 100%

・防災体制の確立



地震、風水害などの自然災害から市民の生命、身体、財産を守るため、「三島市地域防災計画」や「三島市業務継続計画(BCP)」、「三島市水防計画」に基づき防災施策を推進

する。

東日本大震災以降、南海トラフ大地震への危機感や不安が高まっているが、災害図上訓練や防災講演会の実施、啓発チラシや防災マップ等の活用により平常時からの備えと災害時の行動について啓発を進め、市民の防災意識の高揚を図る。

また、自主防災組織や職場などでの防災訓練や、避難所開設訓練を推進するとともに、効率的で要配慮者や女性の視点に立った避難所運営が実践できるようマニュアルの整備に努める。さらに、自主防災組織の強化を図るため、市民ボランティアである防災指導員の育成を進める。

⑤ 低炭素・循環型社会に向けた取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 7.2	指標:新エネルギー等導入件数(導入助成利用件数)	
	現在(2015年): 2,208件	2022年3月: 3,900件
 13.3	指標:環境リーダー育成人数	
	現在(2015年): 1,594人	2022年3月: 2,080人

・再生可能エネルギーの導入支援

住宅や事業所における太陽光発電システムや蓄電システム、省エネナビやエネルギー管理システムの導入、スマートハウスの普及を促進する。

・環境保全活動の推進

小学生及び中学生環境リーダー、高校生以上のエコリーダーなど、学校や地域で中心的な役割を担う環境リーダーを育成するほか、環境ボランティアと連携したごみ拾いや花壇づくり、園児との野菜づくりなど、まちの景観や人の健康にも寄与する環境保全活動を推進する。

(2) 情報発信

(域内向け)

1. 三島市制施行80周年記念事業

令和3年度(2021年)の市政80周年を迎えるにあたり、SDGsの理念に沿った記念事業の企画とともに、本市の自治体 SDGsの取組を情報発信していく。

2. 市主催、共催イベントにおける SDGsの普及展開

市が主催、共催の様々なイベントや広報用チラシ等において、SDGsの目標に関連するアイコンを表示するなどし、SDGsへ関わりを意識できるよう情報発信する。

(域外向け (国内))

1. スマートウエルネスシティ(SWC)首長研究会

全国で104の自治体が加盟するスマートウエルネス首長研究会の全国会議が令和2年度(2020年)に本市で開催されることとなっており、「健幸都市みしま」とともにSDGsの取組を情報発信する。

2. 移住・定住施策における PR

首都圏向けの移住・定住イベントにおいて、本市のSDGsの取組をPRし、意識の高い移住者から共感し選ばれるまちづくりを進める。

(海外向け)

姉妹都市との国際交流事業や本市を訪れる海外からの観光客、あるいは本市に在学する日本大学国際関係学部の留学生などを通じて、本市の取組を情報発信する。特に2020東京オリンピック・パラリンピックにおいては、近隣の伊豆市において自転車競技が開催されることから、駅周辺の花飾りを増やし、来訪した観戦客に本市の取組とおもてなしの心をPRしていく。

(3) 普及展開性(自治体 SDGs モデル事業の普及展開を含む)

(他の地域への普及展開性)

シビックプライドの醸成を通じて、市民協働による美しく品格のあるまちづくりを進めるガーデンシティの取組は、まず中心市街地に花を飾り、ごみのないまちづくりからスタートしたが、次第に広く市民にも認知され、街なかだけでなく、各地域における花壇整備等の活動や、近隣市町にも普及してきている。

当初は花を飾るコストなどに対する批判もあったが、実際には多くの市民ボランティアがこの事業を支えることでコストを下げ、郷土愛やおもてなしの精神が市民に広がっている。さらに、街がきれいになることで、観光客が増え、地方紙には市外から本市を訪れた方から街並みや市民の対応を褒める投書などが掲載され、地価は上昇に転じ、都市のイメージ向上が企業誘致などでも良い影響を及ぼしている。

花を飾ることだけが目的ではなく、美しく品格のあるまちづくりが地域経済の発展、シビックプライドや市民満足度の向上、治安維持にも繋がり、都市の資産価値を高めるものである、という取組の目的をわかりやすく政策的に体系づけることで、大きな成果が期待でき、他の地域への普及展開性が高いモデルである。

(自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

少子高齢化や人口減少、公共財政の逼迫等が進行し、多様な主体による知恵と工夫を活かした「育てる」まちづくりが求められている。

本市のモデル事業は、これまでに培ってきた市民の力を基礎に、官民の適切な役割分担の下、まちづくりを自律的(自立的)・持続的なものに段階的に発展させていくものであり、他地域にとってもSDGs実現に向けて参考になる事業である。

特に、地方都市における”日本版 BID”導入は、全国的にも事例が無く、先駆的な取組であり、将来的に実現した場合は、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム等を活用し、事例紹介や交流を通じて、情報発信することにより、普及展開を図っていく。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 総合計画

2030年を目標年次とする第5次総合計画(2021年3月策定予定)において、SDGsの体系に沿って全施策を整理して記載するほか、SDGsの理念や本市のあるべき姿である将来都市像を掲げるとともに、その実現に向けてバックカスティングの手法により導いた主要施策を定め推進する。

2. 男女共同参画基本計画

2025年を目標年次とする第4次男女共同参画プランにおいて、SDGsの考え方を反映した女性活躍や男女共同参画の取組について記載する(2021年3月策定予定)。また、ジェンダーの平等を目指し、性的役割分担意識の解消や性的マイノリティに対する理解促進などの取組を進める。

3. 子ども・子育て支援事業計画

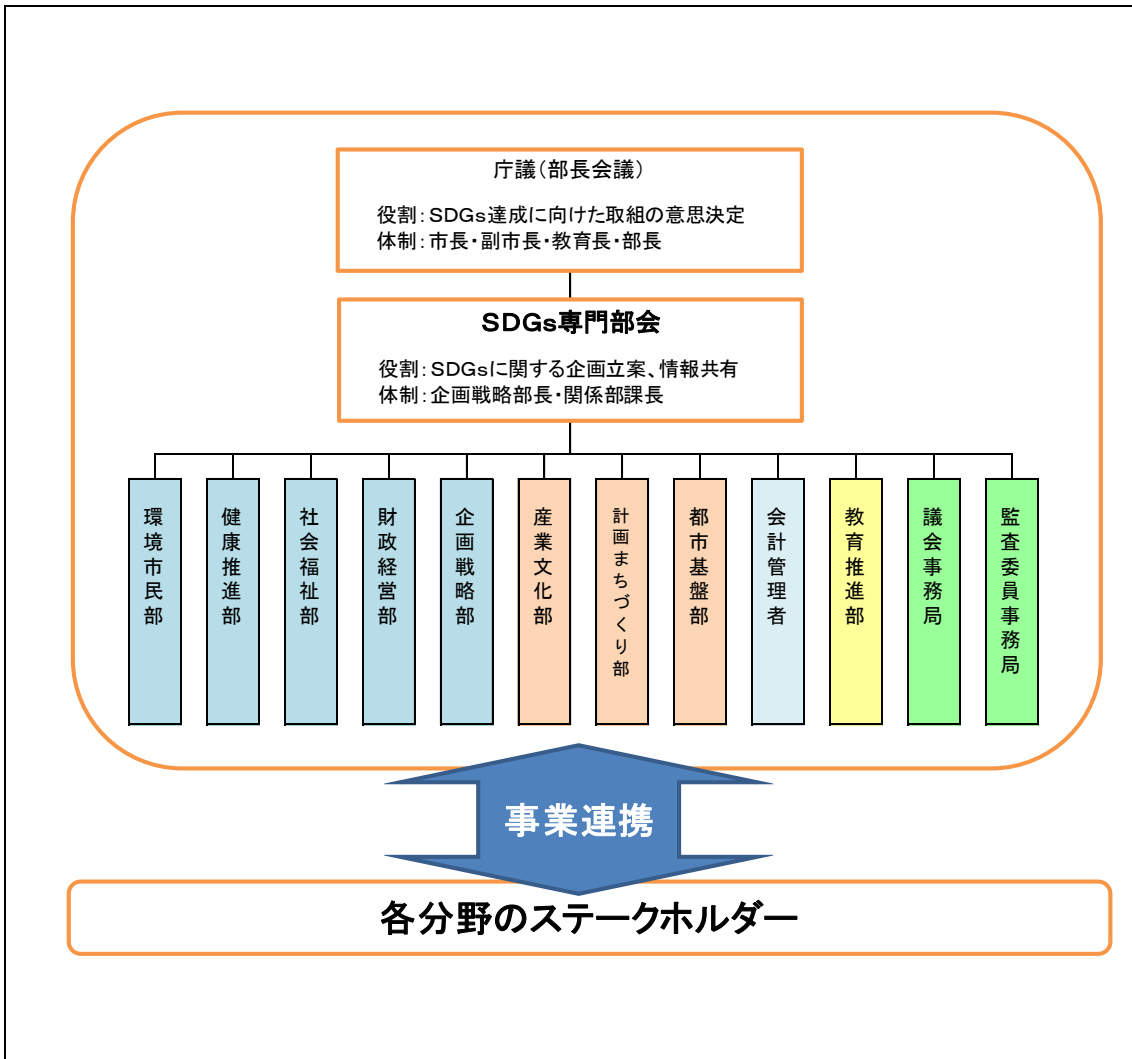
第2期三島市子ども・子育て支援事業計画(2020-2024)では、基本目標ごとに該当するSDGsのゴールを掲げ、一覧にしている。またこの中で、子どもの貧困対策推進計画を位置づけ、SDGsにおける目標のうち「1.貧困をなくそう」、「3.すべての人に健康と福祉を」、「4.質の高い教育をみんなに」、「10.人や国の不平等をなくそう」の4つの目標について取り組むことを記載している。

4. 環境基本計画

第2次三島市環境基本計画後期基本計画(2017-2022)では、持続可能な社会を目指し、低炭素・循環型社会、自然共生社会に向けた取組を定めている。また、2000年に環境ISO14001の認証取得後、2014年からは独自の環境マネジメントシステムを運用しており、環境基本計画と環境マネジメントシステムによるPDCAサイクルにより、計画を推進している。2023年に策定予定の次期計画では、SDGsの体系に沿って施策等を整理し、目標のアイコンを明記する。

(2) 行政体内部の執行体制

SDGsの推進にあたっては、横断的な連携が必要であり、全庁的な取組を基本とする。また、部長会議の下に政策企画課を事務局とするSDGs専門部会を設置し、SDGsに関する事業の進捗管理や企画立案を進めていくこととする。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(ガーデンシティの取組推進のための連携)

・ガーデンシティ推進会

企業、市民団体、NPO 法人、学校など約 150 団体からなる組織で、花と緑に溢れる美しい街並みの創造や癒し空間の創出、三島市のイメージアップ、ガーデニング等を通じたコミュニティの形成、健康づくり、新たな観光資源の創出などの検討、協議を行う。

(地方創生の取組に向けた連携)

・三島市金融機関パートナーシップ協議会

本市とパートナーシップ協定を締結している地元金融機関 6 団体、三島商工会議所が連携し、新たな産業創出や地元産業の活性化、地域資源の活用などの検討を行っている。

(市内中小企業支援のための連携)

・三島商工会議所

三島商工会議所との連携により設立したみしま経営支援ステーション(M-ステ)では、様々な相談業務や専門家派遣など市内中小企業や新規ベンチャー企業の支援を行う。

(その他 SDGsに関連した連携、協力)

・静岡県立三島北高校

令和元年度に文部科学省からWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業における拠点校として全国で10校の1つに三島北高校が選ばれ、2021年には、SDGsを複数の視点からアプローチする課題研究活動に関する高校生の国際会議が予定されており、本市も支援、協力をを行う。

・就労継続支援B型事業所さわじ作業所

一般企業等での就労が困難な方に、働く場を提供するとともに、知識や能力の向上に向けた訓練を行うさわじ作業所では、SDGsの木製ピンバッジを作成し販売しており、本市では職員などに積極的に活用を呼び掛けている。

2. 国内の自治体

(観光施策推進のための連携)

・伊豆箱根鉄道駿豆線沿線地域活性化協議会

伊豆箱根鉄道沿線の4市町と同社が地域活性化に向けて協議会を設置し、観光、防災、防犯の部会を構成し連携・協力体制を図っている。

・一般社団法人美しい伊豆創造センター

三島市長が会長を務め、伊豆地域の行政や民間企業など90団体で構成する美しい伊豆創造センターは、日本版DMOに登録され、地域連携を進めながら伊豆地域への観光誘客と地域の活性化を図っている。

・箱根八里街道観光推進協議会

箱根旧街道にゆかりのある地域が連携し、歴史、文化、および景観等の地域資源を活用した地域間交流と街道観光の推進に関する事業を行う目的で設立したもので、構成メンバーは、箱根町・小田原市・三島市、および各地域の観光協会や商工会議所、両地域の国道事務所や県などとなっており、事務局は三島市と全国街道交流会議が担っている。

3. 海外の主体

・海外友好姉妹都市とは相互に訪問団の派遣や市内中高生の派遣、交流を実施しており、豊かな自然環境の保全や活用に関する取組、教育等について普及展開や連携を図っていく。

アメリカ パサディナ市、中国 麗水市、ニュージーランド ニュープリマス市

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

1. (仮)三島市 SDGs推進協議会

本市における SDGs推進の中心的な施策であるガーデンシティの取組においては、推進協議会に多数の民間企業や市民が参加しているほか、地方創生の様々な課題解決に向け、すでに多くの企業との間で連携協定を締結しており、多様な連携体制が構築されている。今後、SDGsをプラットフォームとする連携の再構築と期待される役割の明確化などパートナーシップの深化を図るため、新たなコンソーシアムの設置を検討する。

2. 「(仮)三島市 SDGsパートナー」の登録

本市の SDGsの取組に協力・協賛する企業や自らも SDGs推進に取り組む企業、団体等を「(仮)三島市 SDGsパートナー」として登録し、好事例として認定し、普及展開を図る。

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

エリアマネジメントによるガーデンシティの新展開

(課題・目標設定)

ゴール 3 ターゲット 3.8

ゴール 6、ターゲット 6.6,6.b

ゴール 8、ターゲット 8.9

ゴール 13、ターゲット 13.1

ゴール 15、ターゲット 15.1

ゴール 17、ターゲット 17.17



本市は、富士山の湧き水が清らかなせせらぎとなってまちを巡る「水の都」であり、まちなかに緑があふれ、歴史や文化も息づいている。ここに「花」の彩りを添えることでまちの魅力・品格を更に高め、地域に対する誇りを醸成する「ガーデンシティみしま」の取組をはじめとして、これまで「自助」意識の高さを活かした官民連携の取組を推進している。

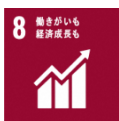
一方、従来の取組は、町内会活動やボランティアが中心のため、世代交代や人材育成、資金の確保等が課題となっている。

(取組概要)※150文字

これまでに培ってきた市民の力を基礎に取組を促進するとともに、町内会活動やボランティアが中心であった従来の取組を自律的(自立的)・持続的なものに発展させていくため、エリアマネジメントによるまちづくりにステージを上げ、将来的には”日本版 BID”の活用も見据えながら、一層の事業推進を図っていく。

(2) 三側面の取組

① 経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 8.9	指標: DMO 設立	
	現在(2020年): 1 団体	2022年: 2 団体

①-1 官民一体の観光推進組織 DMO の設立・新たな観光コンテンツ開発

旅行動態の変化や観光客のニーズの多様化等を踏まえ、官民一体で観光誘客を持続的・発展的に推進していくための連携体制を構築し、地域特性を活かした新たな観光コンテンツの開発に向けた事業を実施する。(地方創生推進交付金申請予定事業)


①-2 英語ガイド育成・ガイドツアー実施

観光スポットを訪れた外国人観光客に「正しく」「分かりやすく」説明できる民間ガイドの育成のための研修会を開催する。また、育成した英語ガイドによるツアーを実施し、外国人観光客の市内回遊や滞在促進、満足度向上や消費意欲の取り込み強化を図る。(地方創生推進交付金申請予定事業)

(事業費)

3年間(2020～2022年)総額: 14,600 千円

② 社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 3.8	指標: スマートウェルネスみしまの認知状況(市民意識調査)	
	現在(2019年): 31.4%	2022年: 40%

②-1 市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくり




全ての市民を対象とした生活習慣病予防、介護予防をはじめとするあらゆる領域における健康づくり施策に加え、特に食と運動・スポーツによる取り組みを進めていき、“治療中

心から予防重視への転換”を図る。

(事業費)

3年間(2020～2022年)総額:123,000千円

③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 6, 6.6,6.b	6,	指標:ガーデンシティの取組を行うボランティア団体数	
	6.6,6.b	現在(2019年): 120団体	2022年: 123団体
	13,	(内訳)	
	13.1	<ul style="list-style-type: none"> ・公共花壇(三島花の会)1 ・中心市街地(花サポーターみしま)1 ・地域花壇 99 ・企業花壇 19 	
 15, 15.1	15,		
15.1			
 17, 17.17	17,		
17.17			

③-1 品格ある美しいまちなみの創造

本市のメイン通りである三島大通り並びに芝町通りをガーデンシティのシンボルロードとして位置付け、訪れた方々に心地よく過ごして頂くため、季節に合わせた花飾りの作製や、ゴミ拾い等の清掃活動を市民との協働により取り組み、年間を通じて品格ある美しいまち並みを創出する。

また、本市は、富士山の湧き水が清らかなせせらぎとなってまちを巡る「水の都」であり、この豊かな水環境がもつ魅力を最大限活用したまちづくりを市民・行政・関係団体が一体となって取り組む”水の郷”構想を推進する。

③-2 元気あるにぎわいづくり

賑わいの中心となる中心市街地の商店街を対象として、各商店が花と緑をテーマとしたイベント等の「おもてなし」を行い、街なかの回遊性とその質を高めていく。

③-3 新たなコミュニティときずなづくり

公共用地(用買後未利用地等)、公民館の花壇、沿道等の花壇を使い、地域住民をはじめ、自治会、団体等との協働により花壇づくりを行う。また、市民・事業者へ種子(ゴーヤやアサガオなど)を無償配布し、緑のカーテンの普及推進を図る。

(事業費)

3年間(2020~2022年)総額:462,000千円

(3)三側面をつなぐ統合的取組

(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

エリアマネジメントによるガーデンシティの新展開

(取組概要)※150文字

これまで培ってきた「自助」意識の高さを活かした取組を自律的(自立的)・持続的なものに発展させていくため、エリアマネジメントによるまちづくりにステージを上げ、将来的には、「日本版 BID」の活用も見据えながら、一層の事業推進を図っていく。

(事業費)

3年間(2020~2022年)総額:15,000千円

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

統合的取組により、これまで取り組んできた「ガーデンシティみしま」の官民連携の活動が自律的(自立的)・持続的な取組として一層発展していくことから、環境面での一層の効果発揮をはじめ、経済面においては、資産価値の保全・増進、にぎわい創出、人をひきつけるブランド力の向上が期待でき、社会面においては、ソーシャルキャピタル醸成、安全・安心な地域づくりの促進等、三側面全体にわたり相乗効果が波及されていく。

ただし、この統合的取組を実行するにあたっては、多くの関係者が関わり合うため、合意形成に時間がかかることに加え、その成果についても必ずしも短期的に得られるものではなく、長期にわたる継続的な活動により顕れてくるケースもあることから、関係者に対しては、歩行者通行量や売上高増加等の経済的メリットを見える化して、理解促進を図り、自発性を喚起していく。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇔環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: セントラルパークの楽寿園入込人数(出典: 三島の統計)	
現在(2017年度): 320,051人	2022年度: 335,000人

エコツーリズム実施等により来訪者に自然環境や文化等の地域の魅力をPRすることで、環境保全の意識啓発が図られるとともに、地元住民も地域を見直す機会が得られ、地域特性を活かしたまちづくりが活性化する。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 中心市街地周辺歩行者数(出典: 立地適正化計画)	
現在(2018年): 5,700人	2022年: 6,600人

花で彩られたまちなみや、市内に点在する湧水の拠点をネットワーク化し、回遊性を高めることで、観光客の滞在促進・消費拡大を図っていく。

(3-2-2) 経済⇔社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 65歳からの平均自立期間(要介護度2~5にならない期間)(出典: 静岡県「お達者度」)	
現在(2016年): 男性: 18.61年 女性: 21.37年	2022年: 男性: 19.1年 女性: 21.7年

豊かな自然資源を有し国内有数の観光地となっている富士・箱根・伊豆の玄関口に位

置している地域特性を活かし、広域連携によるヘルスツーリズム等を行うことで、健康増進を図る。

(社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 高齢者いきがいセンター利用者数	
現在(2018年): 延べ 1,890 人 (2014~2018年度)	2022年: 延べ 3,500 人 (2014~2022年度)

公共交通網の再編により、高齢者の外出機会を増やしていくとともに、高齢者の就業機会を確保するための情報の収集・提供、高齢者の就業に必要な知識・技能の講習等を行い、人手不足の解消・経済活性化を図る。

(3-2-3) 社会⇄環境

(社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 公共交通利用者数(出典: 立地適正化計画)	
現在(2016年): 19,947 千人	2022年: 22,000 千人

コンパクトシティ・アンド・ネットワークのまちづくりを推進し、グリーンインフラの活用拡大を進めることで、まちのウォークアビリティを向上し、健康増進とともに、環境負荷の低減を図る。

(環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 幸福感 10 段階で 7 以上の割合(市民意識調査)	
現在(2019年): 60.1%	2022年: 68.0%

「ガーデンシティみしま」の取組を一層推進することによりにより、ソーシャルキャピタルの醸成・コミュニティ活性化に繋がり、そこで暮らす市民生活をより豊かなものにする。

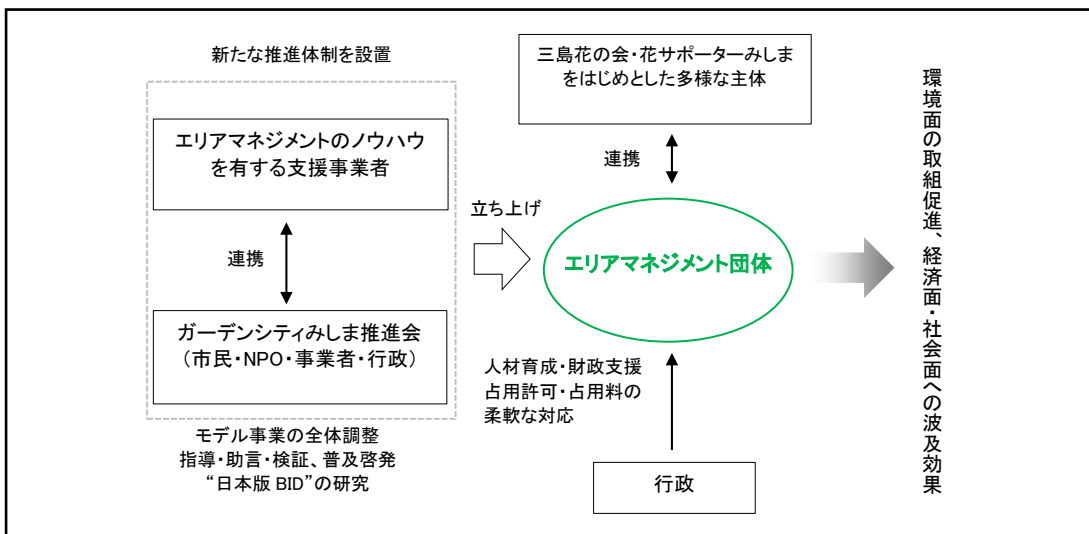
(4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
ガーデンシティみしま推進 会(市民・NPO・事業者・ 行政により設置)	環境面の取組③-1、2、3 モデル事業の全体調整を行い、取組の検証を行う等、 PDCA サイクルを回していく。
三島花の会(ボランティア 団体)	環境面の取組③-1、2、3 新たに設立したエリアマネジメント団体と連携し、ガーデン シティの実現に向けた活動を行う。(公共花壇)
花サポーターみしま(ボラ ンティア団体)	環境面の取組③-1、2、3 新たに設立したエリアマネジメント団体と連携し、ガーデン シティの実現に向けた活動を行う。(中心市街地)

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

既存の「ガーデンシティみしま推進会」がエリアマネジメントのノウハウを有する支援事業者と連携し新たな推進体制を設置し、エリアマネジメント団体を立ち上げる。まずは、エリアマネジメントの全体像を関係者間で調整し、将来的に求められる役割や機能を構想・共有した上で、イベント開催等の社会実験の実施等を通じて、関係者の合意形成を進め、最終的に関係者の利益向上に資する仕組みを構築する。また、市は、エリアマネジメント団体の人材育成や財源調達面で協力・支援するとともに、公共空間の活用における占用許可や占用料について柔軟に対応する。



(将来的な自走に向けた取組)

本事業によるエリアマネジメントが軌道に乗った後、安定的な財源確保に向けた次の段階として”日本版 BID”の導入を見据えながら、官民一体で研究を進めていく。

(6) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2020～2022年)総額:614,600千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2020年度	0	42,000	155,000	5,000	202,000
2021年度	10,600	41,000	154,000	5,000	210,600
2022年度	4,000	40,000	153,000	5,000	202,000
計	14,600	123,000	462,000	15,000	614,600


















(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額(千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金(内閣府)	2021	5,300	経済面の取組の官民一体の観光推進組織 DMO の設立・新たな観光コンテンツ開発・英語ガイド育成に係る部分について、活用予定。

(民間投資等)

イベント開催や広告収入等により自主財源の確保を図るほか、個人・法人からの寄付金等、志のある民間資金の流入を図り、将来的には”日本版 BID”の活用により、民間資金を中心としたプロジェクト形成を目指す。

(7)スケジュール

	取組名	2020 年度	2021 年度	2022 年度
統合	エリアマネジメントによるガーデンシティの展開	<p>新たな推進体制を設置、事業構想・計画策定、合意形成、全体像の共有 (～10月)</p> 	<p>イベント開催等の社会実験の実施 ワークショップ開催、効果検証 (～2021年3月)</p> 	<p>エリアマネジメントの本格展開</p> 
経済	<p>①-1 官民一体の観光推進組織 DMO の設立・新たな観光コンテンツ開発</p> <p>①-2 英語ガイド育成・ガイドツアー実施</p>	<p>〔 東京 2020 大会オリパラ開催関連事業、レガシー創出 (～3月) 〕</p> 	<p>DMO 設立、新たな観光コンテンツ開発に向けたワークショップ・モニターツアー</p>  <p>オリパラ経験を引き継ぐ英語ガイド育成研修</p> 	<p>新たな観光コンテンツのプロモーション</p>  <p>英語ガイドツアー実施</p> 
社会	②-1 市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくり	<p>市民が主体的に健康維持・社会参加する仕組みづくり 誰もが運動・スポーツを楽しむことができる場と機会の提供 (～3月)</p> 	<p>健康維持・社会参加する仕組みづくり、運動・スポーツ推進</p> 	<p>健康維持・社会参加する仕組みづくり、運動・スポーツ推進</p> 
環境	<p>③-1 品格ある美しいまちなみの創造</p> <p>③-2 元気あるにぎわいづくり</p> <p>③-3 新たなコミュニティときずなづくり</p>	<p>ガーデンシティみしま花飾り、花壇づくり、緑化推進、公園緑地・街路樹の維持管理 “水の郷”構想の推進 (～3月)</p>  <p>みしま花のまちフェア等のイベント実施 (～3月)</p> 	<p>花と緑のまちづくり “水の郷”構想の推進</p>  <p>イベント実施</p> 	<p>花と緑のまちづくり “水の郷”構想の推進</p>  <p>イベント実施</p> 

2020年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: 官民連携で進める「ガーデンシティみしま」の取組 | 提案者名: 静岡県三島市

全体計画の概要:
 ガーデンシティの取組は地域資源である豊かな自然と歴史、文化に新たに「花」を加え、花と緑に囲まれた美しく品格のあるまちを目指すもので、官民連携によるシビックプライドの醸成とともに都市の資産価値を高め、自律的好循環の形成を目指す。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿
	<ul style="list-style-type: none"> ・三島市は静岡県東部、伊豆半島の玄関口に位置する人口約11万人の都市 ・東京から新幹線で1時間の通勤・通学圏内にあり、交通利便性を強みに発展 ・美しい富士の景観や街の中心部を流れる清流など自然豊かで観光客が増加傾向 ・複数の大学や研究施設が立地し若者が集う文教都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水と緑のまち」は変わらず、市内の清流は三島の原風景として継承 ・若者の働く場所が確保され首都圏からのUターン、Iターン率が向上 ・三島駅南口の再開発が完了し、花と緑のガーデンシティが賑わう ・女性や高齢者が活躍し、市民が積極的にまちづくりに携わっている
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	(経済) 新たな産業振興として期待される観光振興と本市の将来を左右する三島駅南口周辺の整備を進める 8.9, 11.3 (社会) 高齢者が暮らしやすい交通ネットワークの形成と女性登用率の向上など男女共同参画を推進する 11.3, 5.5, 5.c (環境) 豊かな自然や湧水、せせらぎの活用と後世に継承していくための保全活動を推進する 8.4, 12.2, 11.6



2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	ガーデンシティみしまの推進(花と緑のまちづくり) 1 花飾り事業 市民ボランティアとの協働により、中心市街地における花飾りや地域花壇の整備等を進める。 2 水辺環境の整備と親水空間の創出 親水公園の整備や放置竹林を活用した川床の設置などを進める。	1 市制80周年記念事業 令和3年度の三島市制80周年に合わせて実施する様々な記念事業を通じて市の将来像とSDGsの取組を情報発信していく。 2 スマートウエルネスシティ(SWC) 首長研究会 令和2年度に本市で開催予定の全国会議において、取組を情報発信する。	ガーデンシティの取組は、都市の目指すべき理想像を市民と共有し、地域資源に「花」を加えることで、シビックプライドの醸成とともに都市の資産価値を高めていくものである。 まちづくり=人づくりでもある本取組は特別な資源や投資を要さず、SDGsという世界共通言語を通じて、普及展開が期待できるモデルである。

3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	1 総合計画(2020年度策定予定) SDGsの体系に沿って全施策を整理して記載するほか、バックキャストによるビジョンとその達成に必要な施策を位置付ける。 2 男女共同参画基本計画(2020年度策定予定) SDGsの理念を反映した女性活躍やジェンダー平等の取組について記載する。	全庁的な取組を基本とし、部長会議の下に政策企画課を事務局とするSDGs専門部会を設置し、事業の進捗管理や企画立案を進める。	

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

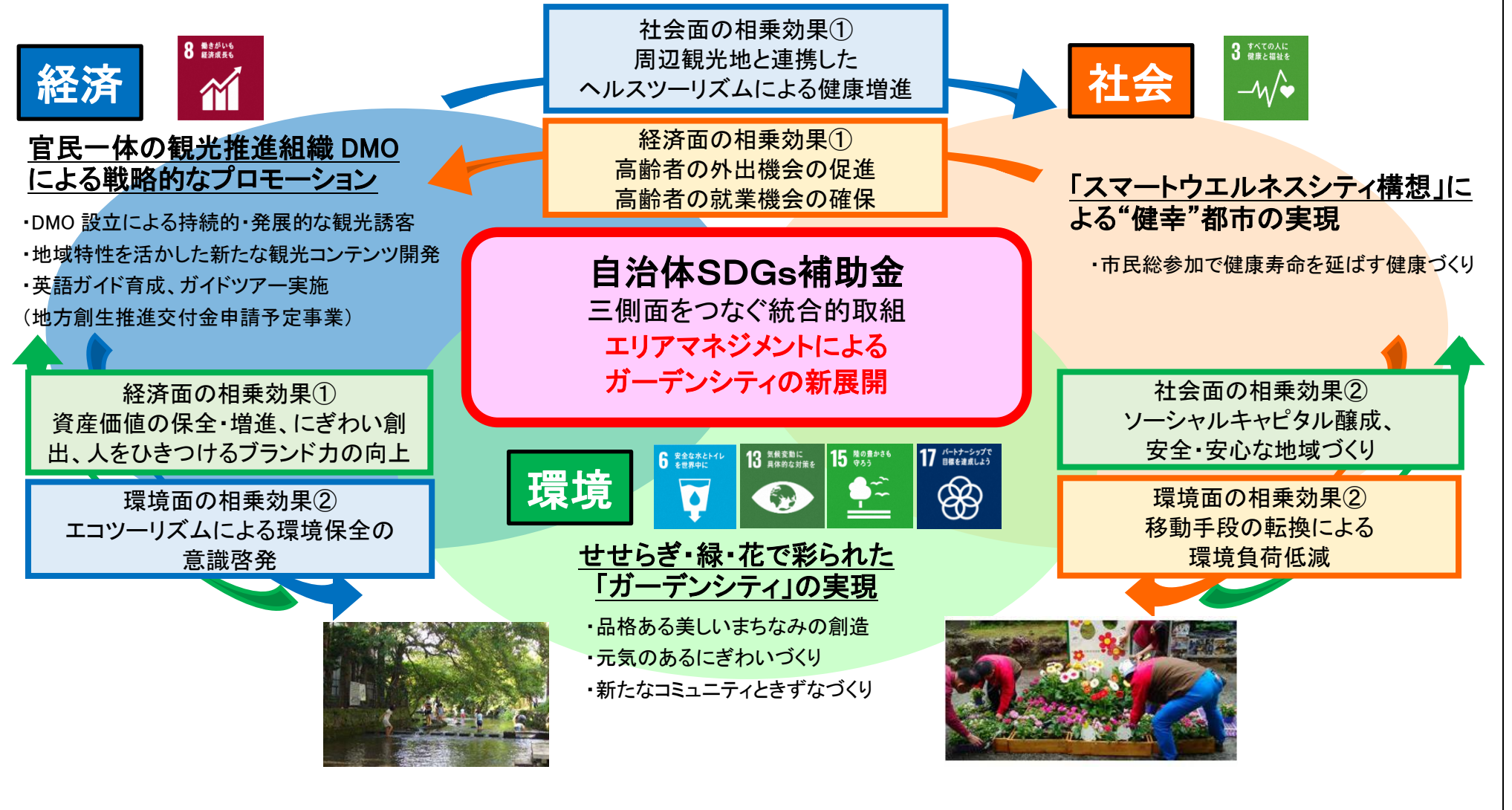
ガーデンシティ推進協議会をはじめ、地方創生に向けた様々な課題解決に向け、すでに多くの企業との間で連携協定を締結しているが、今後SDGsをプラットフォームとする再構築と期待される役割の明確化など、パートナーシップの深化を図るため、新たなコンソーシアムの設置を検討する。
 また、本市のSDGsの推進に協力・協賛する企業を「(仮)三島市SDGsパートナー」として登録し、支援や表彰を行う制度を検討する。

自治体SDGsモデル事業名: エリアマネジメントによるガーデンシティの新展開

提案者名: 静岡県三島市

取組内容の概要:

これまでに培ってきた市民の力を基礎に取組を促進するとともに、町内会活動やボランティアが中心であった従来の取組を自律的(自立的)・持続的なものに発展させていくため、エリアマネジメントによるまちづくりにステージを上げ、将来的には”日本版 BID”の活用も見据えながら、一層の事業推進を図っていく。



2020 年度三側面をつなぐ統合的取組の初年度の事業費等(提案様式4)

統合的取組の事業名:

提案者名:

事業費等

○「全体マネジメント・普及啓発等経費」

区分	費用の額(概算)(千円)	費用内訳・内容
諸謝金		
旅費		
会議費		
印刷製本費	500	普及啓発経費
補助員人件費		
委託料	2,000	導入支援業務委託(事業推進主体組織形成、先進事例収集、構想・計画策定等)
その他(諸経費)		
合計	2,500	

○「事業実施経費」

区分	費用の額(概算)(千円)	費用内訳・内容
外注費		
工事請負		
機械装置導入		
システム開発		
その他		
諸謝金		
旅費		
会議費	500	ルールや仕組みづくりのためのワークショップ開催
印刷製本費		
補助員人件費		
委託料	2,000	導入支援業務委託(イベント開催の社会実験実施等)
その他(諸経費)		
合計	2,500	